

## 第62回日本小児保健協会学術集会 シンポジウム 2

## 子育てを考える

## おもちゃの力

## ～おもちゃを通じた子育て支援～

高野 幸 恵 (トムテのおもちゃ箱)

子どもの育ちにとって<遊び>は大切です。そしてその遊びを大きく規程するおもちゃは、実はとても大切なものです。

1歳を過ぎると、子どもは手指や手首の発達に伴い「積む」遊びに興味を持ち始めます。そんな頃は、散歩道に転がっている石よりも、形や大きさ等、発達に適した「つみき」との出会いが「積む」遊びをもっと楽しいものにしてくれます。高く積めた時、子どもは満面の笑みを浮かべます。この「できた!」という達成感が、「次はこうしてみよう!」と、さらなる遊びへの意欲を生み、繰り返し遊ぶ原動力となります。そして繰り返し遊ぶ中で、自ずと子どもの心身の発達が促されます。

発達に適したおもちゃで存分に遊び疲れた子どもは、深い眠りにつきます。たっぷり遊んでぐっすり眠る。すっきり目覚めてしっかり遊ぶ…正のスパイラルに支えられた生活リズムを獲得することになります。

このように、おもちゃには子どもの発達を支援し、生活リズムを整える力があります。

子どもの就寝時間が遅いために朝起きられない、ごはんを食べない等生活の基本が整わず、子育ての負担感が大きい保護者が多いようです。優れたおもちゃでしっかり遊ばせ、生活のリズムを整えることは、楽しい子育てを支える大きな力となります。

また、おもちゃは、大人の願いや価値観を子どもにさりげなく伝えるツールとしても最適です。例えば優しく思いやりのある子どもに育ててほしいと願う時、ただ「お友だちには優しくしましょう」と言葉で繰り返すよりも、イメージ力をしっかり育てるごっこ遊び

をたっぷりさせることで、大人のこうした願いを子どもたちに届けることができます。「辛抱強さを」と願うのであれば、アナログゲーム等思い通りにならない場面に出会うチャンスのある遊びを。「自尊心をはぐくみたい」と願うならば、お人形遊びがおすすめです。子どもたちはお人形遊びの中で、自分がしてもらったことを再現しながら「自分は大切にされているんだ。私はかけがえのない存在なのだ」と感じとっていきます。このように大人の思いを子どもたちに伝えるツールとして、おもちゃは大きな役割を果たします。

さらにおもちゃには人と人との結びつきを強める力があります。「つながりのある子育て」の大切さ、しっかりと親子関係の構築の重要性が指摘される中、おもちゃの持つ「人と人とを結びつける力」を上手く活用することは大切です。

良好な親子関係を築くには、お世話をすること以上に、一緒に遊ぶことが大切です。子どもたちは「大人の言うことだから」あるいは「先生だから」といった理由で好きになったり、言うことを聞いてくれるわけではありません。相手のことが大好きだから聞く…これが基本です。子どもに好きになってもらうためには、一緒に遊びながらしっかりとコミュニケーションを取り、信頼関係を築く必要があります。そのような時、遊びを盛り上げるツールであるおもちゃは力強い味方になってくれます。おもちゃにはコミュニケーションを促す力があります。優れたおもちゃは豊かな会話を生み出し、よりよい親子関係あるいは保護者同士の関係等さまざまな人と人との結びつきを築きやすくしてくれます。

このような優れた機能を多く持つおもちゃを子育ての中にうまく活用することで、もっともっと子育てを楽しめる環境作りができるのではないかの思いから、私たち「トムテのおもちゃ箱」は、おもちゃを活用した子育て支援を行っています。

中でも人と人とを結びつけるおもちゃの力を活用し、地域の中につながりのある子育てを広げていこうと、良質な木のおもちゃを中心に数十点のおもちゃを選び、貸出用の「おもちゃキット」を作り、子育てサークル等への貸出を行っています。

おもちゃキットの貸出事業は、単なるおもちゃのレンタルではなく、子育て中の保護者がキットを使って身近な仲間に声をかけ、各々の地域におもちゃで遊ぶサークルを作るシステムです。子育て支援センター等によくみられる「支援する者」と「支援される者」が二分化された支援ではなく、子育て中の保護者自らが地域の中で同じように子育てをしている仲間に「おも

ちゃと一緒に遊ばない？」と声をかけ、地域の中につながりを作り、必要な支援を自ら作っていく主体的な活動です。

実際にお互いが声をかけ合って集まる中で、「お遊び教室等では何度通ってもできなかった、悩みも話せる友だちができた」あるいは、おもちゃで遊ぶだけではなく、ミニ遠足に出掛けたり、水遊びをしたり、英語の得意な保護者が英語を教えたり、読み聞かせをしたり等、身近な仲間ができたことをきっかけに、積極的に自分たちで子育てを楽しもうという姿勢も多く生まれています。

このように、子育て中の保護者自身が積極的に、わが子のことや子どもを取り巻く地域の課題を考えることが、子育てを楽しむこと、ひいては子育てしやすい環境やより良い地域作りへとつながっていくのではないのでしょうか。

おもちゃキットは通常の貸出用おもちゃキットが

表 トムテのおもちゃ箱 活動実績

平成26年度活動実績

内容	回数	参加者数
おもちゃキット貸出	126回	のべ 3,205名
おもちゃひろば開催	43回	のべ3,858名
ゲーム大会	29回	のべ797名
カプラであそぼう！	15回	のべ843名
研修会・定例会	19回	のべ171名
講演会	1回	143名
合計	233回	のべ9,017名

平成25年度活動実績

内容	回数	参加者数
おもちゃキット貸出	120回	のべ 2,736名
おもちゃひろば開催	35回	のべ8,010名
ゲーム大会	18回	のべ 197名
カプラであそぼう！	11回	のべ 557名
研修会・定例会	18回	のべ 107名
長崎市提案型協働事業	29回	のべ691名
合計	231回	のべ12,298名

平成24年度活動実績

内容	回数	参加者数
おもちゃキット貸出	101回	のべ 2,382名
おもちゃひろば開催	27回	のべ 1,172名
ゲーム大会	35回	のべ 788名
カプラであそぼう！	9回	のべ 385名
研修会・定例会	25回	のべ 200名
長崎市提案型協働事業	16回	のべ 619名
合計	213回	のべ5,546名

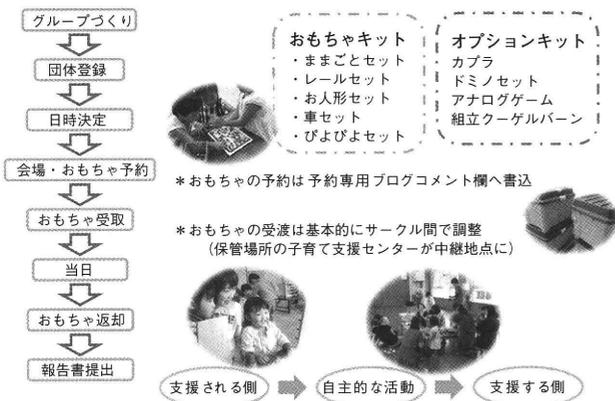


図1 おもちゃキット貸出システム

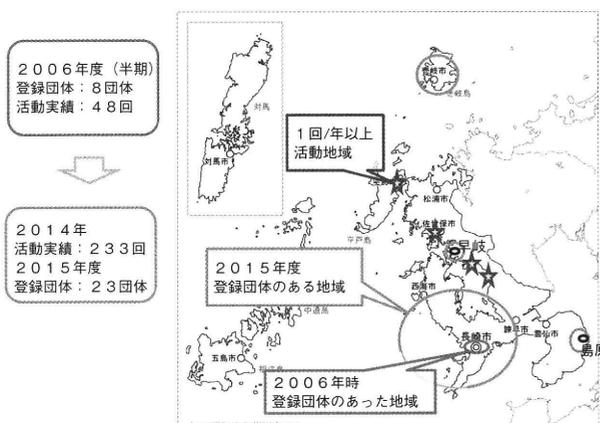


図2 トムテのおもちゃ箱の活動地域

5種類、オプションキットは4種類あります(図1)。通常のおもちゃキット5種類は未就園児親子を対象とした内容ですが、オプションキットは長期休暇等、きょうだい児の参加があった場合でもたっぷり遊べるよう、対象年齢の高いおもちゃキット(ドミノ、カプラ、組み立てクーゲルバーン、アナログゲーム等)となっています。オプションキットを準備することで、異年齢の子どもたちが一緒に遊べる場作りをサポートできるしくみになっています。

「おもちゃ」という楽しいツールを利用すると、地域の中でも子育て中の保護者同士が互いに声をかけやすく、つながりを作りやすくなります。大人がつながることで、悩みを話したり共感したりする場が生まれます。一家庭だけでなく地域で子育てできるようになると、心に余裕が生まれ、保護者が子育てを楽しめるようになるのではないかと思います。

当初は図2のように市内のごく限られた地域で始まった活動ですが、現在は離島を含む県内各地域に広がっています。このおもちゃキットをツールとして生まれた各々の地域のつながりを核にして、小学生以上も参加するアナログゲーム会など、対象年齢の高い遊びを取り入れた集いを企画するグループも出てきました(表)。このおもちゃを媒介にした地域でのつながりが、単に乳児期のみといった短期間に終わらず、幼児期から学童期以降も継続して各々の地域で維持できるよう願っています。

私たちはおもちゃキットの貸出事業を通じて、単に「おもちゃ」というモノの貸出ではなく、人と人をつなぐ空間作りを目指しています。